

平成30年第1回北海道議会定例会 予特（総括質疑） 開催状況（経済部観光局）

開催年月日 平成30年3月16日

質問者 日本共産党 真下 紀子 委員

答弁者 知事 高橋 はるみ

質 問 要 旨	答 弁 要 旨
<p><b>二 カジノ誘致の対応等について</b>  <b>(一) IR議連総会での発言について</b>                      (真下委員)                      知事は昨年4定の知事総括で「IRの導入について判断できる状況にない」と、そう答えておりました、今回の各部審査でも同じ答弁を繰り返しました。                      ところが、先月のIR議連総会で知事は、「4～5ヶ所の区域認定を行っていただきたい」と発言をしました。与党内でも意見が分かれ、ギャンブル依存症などの対策ははっきりしない中、この発言は高橋知事が先頭になって議論をけん引している、推進していると言わざるを得ないばかりではなく、議会答弁とも乖離をしているんじゃないか、矛盾しているんじゃないかと考えるところです。あるまじき行為と考えますが、道民にどう説明するのか伺います。</p> <p><b>(二) 道民からの要請について</b>                      (真下委員)                      国の動きを注視すると言いながら、制度設計まで踏み込む今回の発言はフライングだと思います。これは厳しく指摘しておきます。苫小牧市ではカジノ反対署名が1万人を超え、道に決議が届けられております。子どもの発達・福祉に関わる道内6団体から、カジノ誘致をやめるよう求める要請を、道は受け取っているわけです。知事のところにも届いていますね。IR誘致の結果、「家庭が崩壊して子どもの育つ環境がますます劣悪になる」「青少年の人格の形成を歪める」「人間関係を壊す」という専門家からの指摘を、知事は真正面から受け止め、誘致をきっぱり断念するべきではありませんか。</p> <p>(真下委員)                      国会での見通しもまた不透明な状態になってきていますので、知事がカジノ推進の先陣を切る必要はないと、他のことで活躍していただきたいと思います。</p>	<p>(知事)                      IR議連総会における発言についてであります、道といたしましては、これまでも国に対し、地域の魅力や強みを生かした地方ならではのIRの実現やギャンブル依存症などの社会的影響に対する万全の対策が盛り込まれた制度設計について要望してきたところであり、先のIR議連においても、改めてこうした考え方を述べさせていただいたところであります。                      現時点では、IR実施法案の内容など、国の考え方が明らかになっていないことなどから、その導入について判断できる状況にはございませんが、IRが本道の振興に資する制度設計となり得るかどうか、引き続き、国の動きを注視するとともに、必要な対策を求めたい考えであります。</p> <p>(知事)                      IR誘致についてであります、IRは、インバウンドの加速化に向けた大きな推進力になることが期待される一方で、ギャンブル依存症などの社会的影響を懸念する声もありますことなど、さまざまな意見があるものと認識をいたします。                      このため、道では、道民を対象にIRに関する幅広い情報提供を行うことを目的としたセミナーを道内各地で開催をし、理解を深めていただくよう努めてきたところであります。                      IRの検討に当たっては、道民の皆様の意識の把握に努めていくことが重要と考えているところであり、今後とも、IRに関する認識を深めていただけるよう幅広い情報を提供するとともに、ギャンブル依存症に関する懸念といった道民の皆様からの様々なご意見を参考にさせていただきながら、検討を深めてまいりたい考えであります。</p>